

洋書輸入協会会報

VOL. 15

NO. 2

(通巻166号) 昭和56年2月

新年懇親会

洋書輸入協会の発展を象徴するかの如く、賀詞交換会の参加人員は年々増加し、遂に本年は200人の大台を突破した。(出席209名)昨年までは有楽町のプレスクラブ(洋販渡辺社長のご好意による)を会場としていたが、スペース的に無理となり(昨年は198名で、あふれた)今年から東京プリンスホテルに会場が移されたわけである。

定刻6時30分、文化厚生委員長鈴木常夫氏(三洋出版貿易社長)の開会宣言に始まり、まず理事長飯泉新吾氏(丸善社長)が、石油事情、米国の高金利、政府の緊縮財政等、業界を取りまく経済環境の厳しさを指摘され、危機を乗り切るためのいっそうの協力を呼びかけられた。続いて、最長老の内外交易山縣社長の発声で一同乾盃、立食パーティに入った。



メクレンブルグ鈴木氏(いつもながらご面倒をお掛けするが)の記念撮影のため乾盃のアンコールなどもあって、和やかなムードがかもされ、たまたまホテルに居合わせた、プリンスホテル常務見角氏(鈴木文化厚生委員長の親友)も御札の挨拶に立たれた。

歓談が進み、アルコールもまわり始めた頃、紀伊國屋書店松原社長、プリティッシュ・カウンセラー・ベントレー氏、マグロウヒル稲垣氏に、こもごも挨拶をお願いし、会を盛り上げていただいた。終りに近づき、女性参加者によるコーラスグループが結成(?)され、「年の始め」「花」を斉唱、万場の喝采を浴び、最高頂に達した。しかし予定の時間が切迫、最後に洋販渡辺社長の音頭で一同手じめ、午後8時、名残りつきないまま散会した。協会会員のご協力ならびに、文化厚生委員諸氏のご努力に感謝する次第。

新年懇親会.....	1	Book Review No.74	4	九州県人会のお知らせ.....	5
通関委員会だより.....	2	海外ニュース.....	5	総代理店ご案内.....	5
外国出版社紹介 No.77.....	2	来日外人名簿.....	5	広告 株式会社 紀伊國屋書店...	6
本の本 No.19.....	3	人事異動.....	5		

外為・通関実務研究会

昭和55年12月22日
於 東海銀行日本橋支店

通関委員会
(洋版) 栗 原 光 輝

あわただしい師走に法令が改正になったものである。
11月中に通関委員会を開いて勉強したつもりであるが、
肝心のお役所の適切な説明が得られず、結局、法令が出
た11月28日以降、銀行や税関を尋ねて、こちらの質問箇
所の念を押して、研究会の準備をした。素人講師の私だ
けでは権威がないので、会場をお借りした東海銀行の外
為のベテラン長江義典さんに応援をして頂く。

出席会員67名の実務担当の方がたに、講談調の私の説
明は、今回の改正は素敵なクリスマス・プレゼントであ
ることを強調した。

改正の正式な呼び方は、輸出入貿易管理令の改正であ
るが、資本取引の緩和や、輸出には触れず、課題を「輸
入」に限定した。

IDが不要になったので、事務処理が随分簡便となっ
た。但し、

(A) 1件100万円を超える金額

(B) 通関の時点を中心として、前払或は後払の決済期間

が1年を超えるとき

という、この(A)(B)双方の条件が重なったときには面倒で
ある。この場合は「特殊決済」の認可を得なければなら
ない。従来の「標準外決済」に当る。もっともこの認可
官庁は、通産省本省でなく、通商産業局でよいことになっ
た。

(A) 1件100万円を超える金額

であるが、決済が1年以内のとき、

前払いであれば銀行のマークシートのみ、

後払いであれば、税関印のある「輸入貨物代金の支払
に関する報告書」にマークシートを添えることになる。

1件100万円以下であれば、複雑な手続きからは解放さ
れる。

ここで注意しなければならないのは、今回の改正は為
替面の緩和であって、通関の緩和ではないという点であ
る。ID 不要ということを除いて、郵便通関の報告手続は
従来と変わらない。

外国出版社紹介 No.77

ミラノの G. Ricordi & Co. は今日までの出版点数14
万点を誇り、ミュンヘン、パリ、ブエノス・アイレス
等に支店を持つ世界的規模の大音楽出版社のひとつで
ある。

同社はヴァイオリニストであり、写譜者でもあった
Giovanni Ricordi がライプツィヒのブライトコプフ
出版社の技術を学んだ後、1808年ミラノに設立した。

彼の時代に同社はミラノ・コンセルヴァトワールの
公認出版社となり、さらにはミラノ・スカラ座等で上
演されたオペラの独占出版権を得るなど、現在までの
発展の基礎を築いた。1853年からは息子のティート 1
世が事業を引きついだ。彼はヴェルディと親交を持ち、
彼の全作品を出版するなど、同社の発展に寄与した。
1888年からはティート 1 世の息子ジュリオが引きつ
ぎ、イタリアのみならず、フランス、ドイツなどの他
数の出版社を吸収合併し同社の事業は益々隆盛を極め
た。1913年からは、ジュリオの息子ティート 2 世が
事業を引きついだ。1919年に同社の経営権はリコル

ディ家をはなれる。

同社の主要出版物であるロッシーニ、ベルリオーニ、
ヴェルディ、プッチーニ等のオペラは、これらの時代
に発行されたものである。

第一次大戦以後はイタリアを始めとする古典派作品
の新版出版にも力を入れ始めた。第二次大戦中の1943
年には爆撃により出版物の一部を焼失したが、1950年
に社を再興し、1956年には株式会社に改組し今日に
至っている。

現在同社は、上記のオペラを始め、ヴィヴァルディ、
スカルラッチの全集、音楽辞典 (Dizionario Ricordi
della Musica e Musicisti)、5種類の音楽雑誌、現代イ
タリア人作曲家の作品を始めとして、ポピュラーに至
るありとあらゆる楽譜を幅広く出版している。さら
には、ロッシーニやヴェルディのオペラの「新批判原
版」スコアの出版も企画されており、今後の動向が注
目される出版社である。

中央アジア シルクロードの洋書を溯る(3)

八 木 佐 吉

15～16世紀に始まったヨーロッパ人の地理的の探検発見の時代を後世に、“大航海時代などと称して、書誌・文献学的にも大きな波紋が、洋の東に西に拡まって日本の岸边にも及ぼしたことはすでに周知のことである。イギリスのザ・ハクライト協会などの出版物、オランダの「リンスホーテン協会」の一連の書目、アメリカのロバートソン編のヒリッピン叢書などは19世紀中期から出版されはじめ、未刊写本、既刊書の翻訳、複製などで内外の出版界を賑わしてきた。それらの多くは現今は、古書界で稀覯書扱いされるにいたっている。日本でも先年『大航海時代叢書』一、二編が出ていることなど駄弁の要はないと思う。

さて、このいわゆる大洋の“大航海時代”に対して、陸地ではやや後れたが、18世紀から19世紀にかけて、オリエント各地小アジア、中近東、エジプトなどとギリシャ各地、中央アジア地域での考古学的、地理学的調査探検が始められて、それぞれに発掘、調査、探検の成果が編纂され、出版されていることも既によく知られているところである。

この文の筆者は、これらの現象を“大発掘・探検時代”と名づけて一括表現するとよいようにも考えている。トロイの遺跡をシュリーマンがホーマーの古典から見当をつけて確信をもって、アナトリアの丘の発掘を開始したのは、1850年とのこと、イギリスのアーサー・エヴァレズが、クレタのクノッソスの遺跡に手をつけたのは19世紀末年であり、その他オリンピアの遺跡の発掘、また、エジプト各地の調査など何れも19世紀から今世紀につづいて行われ、結果の発表も夥だしい。インカ・マヤの遺跡・遺宝の調査のこともこれらと前後して開始されている。それぞれに文献図譜の類が欧米で出版されているわけである。初期アフリカ内陸探検家として知られる、ロンドン伝道協会のリヴィングストンがアフリカに渡ったのは、1840年である。スタンレーがリヴィングストンの行方搜索にアフリカに赴いたのは、1871年のことである。

わが中央アジア、シルクロード地域の探検・発掘も

大体、以上と軌を一にしている。少しく異なるところは、この地域は既述したと思うが国際政策つまり政治的意図を含んでの地理的、ないし民族的の調査が先行していることである。軍事的とも言えよう。評判の“トンコー千佛洞”などの発見発掘もこうしたいわば密偵のもたらした情報によるものといわれている。この意味では、帝政時代のロシアが、最もはやい時代に先鞭を付けている。海へ出たい念願深いロシア帝国の南進政策の一環としても考えられるところである。

P. P. セミヨーノフ (1827—1914) が、中央アジア・ジュンガリア地方をつァー・アレクサンドル3世の命で探検したのは1850年ごろからで、その名がこの地方の山脈名にも付けられているほどである。しかし、まだ天山山脈の北西地域の探検調査であつたらしい。その著『天山紀行』(プーテチェストヴィ ヴ テヤン・シャン) は死後、1948年にモスクワで出版された。他に小論文はロシア文で1900年初期に出ている。ワシリイ・ラドロフ (V. Radlov, 1837—1918) もドイツ生まれのロシアの東洋学者・言語学者で、トルコ語、モンゴリア語などに通じていた。1859年から70年代にかけて、アルタイ、トルケスタン、モンゴリアと周辺の言語調査民族調べなどに当たっていた模様で、多くの著書も遺している。

有名な探検家ブルジェヴァルスキー (Nikolai Mikhailovich Prjevalski, 1839—1888) は、祖先はコサックの出身とか。モクスワ西方のスモレンスクの生まれで、軍籍に入り、ロシア陸軍大学を出た人。アムール地方に関心強く、シベリア地区に勤務していた。そして、『ウスリー地誌』を出したのが、上記セミヨーノフに認められて、中央アジア探検に推挙せられたらしい。

ブルジェヴァルスキーは1870年から、1885年にわたって4次の中亜地域探検に従っている。1876—77の第二次にはロップ・ノール(湖)を発見している。この湖は、後にスウェーデンのヘディンが“さまよえる湖”と命名した、ことは人のよく知るところであろう。チ

ベットの秘境の東部及び北部の探検では黄河の水源に達した。第3次探検旅行1879—80年のときである。1883—85年の第4次には、ゴビの砂漠を横断して南行また西行して、黄河と揚子江の分水嶺もきわめている。野生馬を発見して“ブルジェヴァルススー馬”と命名したのも知られている。先日のNHK テレビ“シルクロード天馬の巻”にこれらの馬の群れが映写されたのを見たので思いを新らたにした。

ブルジェヴァルスキー將軍の著者の1875年版の『蒙古とタングートの国』(モンゴリア ストラナ タングートフ)は、反響強かった。翌年英訳2巻がH. ユールの緒言付きで出版され、仏独訳なども直ぐに出版されている。但し日本訳は1950年ごろ出た。

第二次探検の結果を纏めた書物は『クルジャから天山越えロップ湖へ』でロシア文は、1878年に出了た。その本の英訳“From Kulja, across the Tian Shan to Lob-Nor...”がロンドンで出版され、独訳(書名省略)もゴータで刊行されている。この書物に依る探検ルートは、後のヘディン、スタインらを指導し、日本の大

谷隊もこれに頼ったといわれている。その他に『第3次中央アジア紀行』(1883)、『第4次中央アジア紀行』(1888)などがサンクト・ペテルブルグ(今のレニングラッド)のロシア帝国地理学協会から出版されている。

ブルジェヴァルスキーに私淑していたスベン・ヘディンは『ブルジェヴァルスキー將軍の中央アジア探検紀行』と題して、スウェーデン訳を出版した。ストックホルムで1891年のことである。

しかし、この中央アジアの大探検家は、おしくも、第5次の中亜探検隊を組織して行旅について間もなく、天山山脈の西北方イシク・クル湖近くのカラコルで、伝染病で逝去した。1888年11月1日であった。遺言でそのなきがらはイシク・クル湖畔に葬むられた。翌1889年にロシア皇帝は、カラコルの町名をブルジェヴァルスクと改めさせて、將軍の功績をたたえて記念した。現在の地図にも、ソ連邦のキルギス共和国と国名は変ったが、この町名はのこっている。

さて、第5次探検計画は門下のコズロフ達に引き継がれた。

Book Review No.74

「現代の出版」 —マスコミシリーズ 4—

植田康夫 著
理想出版社

普段我々は出版産業の一翼を担ってはいるものの、流通の末端の小売にすぎない。同一商品の産業内に居ても、作る部分の産業と流通の部門とでは、考え方も、あり方もまるで隔りがある。流通の末端でのみ働いている人間にとって、自分の属している産業の全体をある程度史的にうかがい知るには、この本は中々手頃であると思われる。

著者は上智大新聞学科を出て、現在週間読書人副編集長で、同時に上智大講師である。本は書き下したものでなく、著書が今までに、「読書人」をはじめ、各種の新聞雑誌に書いたものを整理して、あるテーマ毎に編集し直したものである。従って読物的な内容で論文を読む様な苦労はない。本の題名だけ見ると、現代の出版の問題点を深刻に論じた本かと思うが、全体としては、著者も言う通り一種の戦後出版興亡史の本と

いった趣きになっている。

全体は5章より成る。第1章：何よりも創造力と勇氣を。第2章：現代出版界トピックス。第3章：雑誌の魅力。第4章：出版界と出版史スケッチ。第5章：編集者タレントロジー。各章それぞれ面白い内容であるが、特に興味深かったのは、第2章の中の「専門書出版と販売戦略一名著普及会の場合」、第3章の「週刊誌はこうして作られる」などであった。前者は、普段の自分達との業務と無関係ではないという意味で興味をそそられ、後者は、今まで予備知識はあったものの、日本の出版社系週刊誌が「三銃士」のアレクサンドル・デュマと同じアイデアと言う分析は面白かった。最後の第5章には、丸善の「学鑑」にふれた項もある。

(SSD, S. N.)

海外ニュース

「英国書籍出版点数著増」

The Bookseller 誌が発表した統計によれば、1980年に英国で出版された書籍の総点数は48,158点で、このうち新刊書が37,382点、重版および復刻版が10,776点であった。

この数字は、前年の41,940点を6,218点、15%上回る史上最高の記録である。このような大幅な伸びは、出版のずれ込みや扱い輸入書の増加のみでは説明できない。不況下にあつて各出版社が、出版部数の落ち込みや1点当り販売冊数の低下による売り上げの減少を、出版点数の増大によってカバーしたものと推測される。

分野別に見てもあらゆる分野が軒なみに増加している。小説は594点、13%増、児童書は271点、8.5%の増であった。

(The Bookseller, 1981年1月3日号より)

—— 紀伊國屋書店提供 ——

来日外人名簿

12月初旬 Mr. Gerard Choquet, Directeur Presse, et Directeur Zone Sud, G. I. Hachette, Paris

" Mr. Richard Dana, Managing Director

" Mr. Spike Hughes, R. & J. Balding Books Limited, Edinburgh

12月中旬 Mr. Ian Pringle, Export Sales Director, Pitman Books Limited, London

人事異動

次の通り連絡がご座いましたので、会員名簿の訂正願います。

㈱ブックス・フォア・ジャパン

新就任 代表取締役社長 高木志都夫

(辞任) " 市川 温

尚市川温氏は昭和56年1月より Harcourt Brace Jovanovich Intl.の極東代表に就任されました。

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。お手許の Agent List にご記入願います。

三洋出版貿易㈱

☎669-3761

International Centre for Diffraction Data. (JCPDS)

All Publications

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

☎262-5278

Allanheld, Osmun & Co. Publishers, Inc. (U.S.A.)

総代理店

Rizzoli International Publications, Inc. (U.S.A.)

総代理店

Frances Pinter Ltd. (U.K.)

総代理店

Fairleigh Dickinson University Press (U.S.A.)

ストックリスト

Graphicolor (Edition Belvedere) ￥12,800

Black Africa (Edition Belvedere) ￥12,800

Examples of Chinese Ornament (Edition Belvedere)

￥28,000

Design & Art Direction '80 (D & AD) ￥16,320

Design & Art Direction Showcase (D & AD)

￥65,960

丸 善㈱

☎272-7211

Ashworth, B. & I. Sherwood.- Clinical Neuro-
ophthalmology. 2nd ed. (Blackwell Sci. Pub.: U.
K.)ca ￥13,600

European Pharmacopoeia. 2nd ed. (Maisonneuve:
France)ca ￥39,000

Longman Lexicon of Contemporary English. By
Tom McArthur (Longman: U.K.)ca ￥3,800

㈱ブックス・フォア・ジャパン

☎263-6804

代表業務中止のお知らせ

Harcourt Brace Jovanovich Inc. (U.S.A.)

九州県人会のお知らせ

協会会員の親睦団体として稲門会、立教会、ヤング会等ありますが、今回、紀伊國屋相良常務を会長に戴き、九州県人会が発足、さる1月23日初会合を開きました。洩れた方があると思はれますので、事務局までお知らせ下さい。次回より案内差上げます。現在会員13名。(TM記)

図書館・研究室・資料室必備の最新リファレンス、経済学者も必携。

経済学の専門用語を四か国語で便覧できる

四か国語(英、仏、独 及びオランダ語)

『経済学用語辞典』

(オランダで刊行、近日入荷予定)

QUADRILINGUAL ECONOMICS DICTIONARY

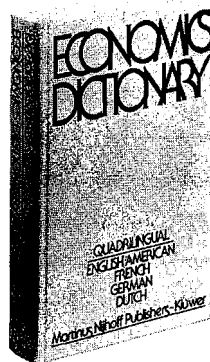
Compiled by FRITS J. DE JONG Edited by S. K. KUIPERS AND B. S. WILPSTRA

Department of Economics, University of Groningen, The Netherlands

685p. 1980: 11 ISBN 90-247-2243-8 ¥14,250

(Nijhoff) —H—

経済学分野での新しく重要なリファレンス・ブックとして、世界の経済学者が待望していた上記辞典が刊行されました。この辞典は、フロンヘン大学経済学部の故 DE JONG 教授が30数年をかけて編集した、四か国の経済学専門用語を、教授が1976年に没した後、2人の同僚教授が編集刊行したものです。英仏独蘭の四か国語別セクションで構成され、見出し語は広義の経済用語、即ち、マクロ・ミクロ両経済理論、財政、国際貿易理論などの幅広い専門用語を収録しています。見出し語は、四か国別にそれぞれ独立した章別に分離されて配列され、利用者が便覧し易い様に編集されています。是非、図書館、研究室、資料室はもとより、経済学者の方々も個人でお揃えになります様、お願い申し上げます。



日本総代理店

東京・新宿・新宿3-17-7
郵便番号160-91

株式
会社

紀伊國屋書店

Tel.(03)354-0131(大代表)
振替・東京9-125575

昭和56年2月 通巻第166号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎ 371-5329